

令和元年度病虫害発生予察予報10号（1月）

令和2年1月9日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	平年並(中央、西)、やや少(中西) 平年並(中央)、少(中西、西) <u>やや多(中西、西)</u> 、少(中央) <u>多(中西)</u> 、少(中央、西) <u>やや多(中西)</u> 、少(中央、西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	<u>やや多(西)</u> 、平年並(東)、少(中央) <u>やや多(中央、西)</u> 、平年並(東) 少(県下全域) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(東)、少(西) <u>やや多(西)</u> 、平年並(中央)、少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	<u>やや多(中西)</u> 、平年並(東、中央) <u>やや多(中西)</u> 、少(東、中央) <u>やや少(中西)</u> 、少(東、中央) <u>やや多(中央、中西)</u> 、少(東) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東)、少(中央) やや少(中央、中西)、少(東)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央) 少(中央) 少(中央)

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台 1 月 2 日発表）

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 1 月 4 日から 2 月 3 日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 70% です。降水量は、平年並または多い確率ともに 40% です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに 40% です。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 80% です。2 週目は、高い確率 50% です。

3 ～ 4 週目は、高い確率 50% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	20	70	
		降水量	20	40	40	
		日照時間	40		40	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80	
2 週目		20	30	50	
3 ～ 4 週目		20	30	50	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：1 月 4 日（土）～ 2 月 3 日（月）

1 週目：1 月 4 日（土）～ 1 月 10 日（金）

2 週目：1 月 11 日（土）～ 1 月 17 日（金）

3 ～ 4 週目：1 月 18 日（土）～ 1 月 31 日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：平年並（中央部、西部）、やや少（中西部）

根 拠

(1) 12 月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年並、中西部ではやや少なかった。発病程度は中央部で平年より高かったが、その他の地域は平年並以下であった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量： 平年並（中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年並、その他の地域では平年よりも少なかった。発病程度は中央部で平年よりもやや高かったが、その他の地域は低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量： やや多（中西部、西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部、西部で平年よりも多く、中央部ではやや少なかった。発生程度は西部で高く、他の地域は平年並以下であった。
- (2) 厳冬期で増殖が緩慢になるため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量： 多（中西部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、既発ほ場を中心に発病株の増加が見られた。発生面積は県中西部で平年よりも多く、他の地域では少なかった。また、発病程度は県下全域で平年並以下であった。
- (2) 厳寒期であり、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢なことや、野外から施設内への飛び込みもないので、新たな発生は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量： やや多（中西部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、県中西部では発生面積が平年よりも多く、発生程度も平年より高かったが、他の地域では発生面積は少なく、発生程度も低かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になるため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に、既発ほ場では、この時期に防除を徹底する。
- (2) 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（西部）、平年並（東部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりもやや多く、他の地域は平年並以下であった。発病程度は中央部、西部で平年よりも高く、東部では平年並であった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：やや多（中央部、西部）、平年並（東部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部と西部で平年に比べやや多く、東部では平年並であった。発病程度は中央部で平年よりも高く、他の地域では平年並以下であった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生を認めたが、発生面積は全般的に平年に比べやや少～少なく、寄生葉率も低かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（東部）、少（西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部でやや多かった。また、寄生葉率は両地域ともに平年よりも高かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) ジアミド剤（フェニックス顆粒水和剤、プレバソンプロアブル5など）の効果が低下した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（西部）、平年並（中央部）、少（東部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、東部では少なかった。また、寄生葉率は、西部で平年よりも高かったが、他の地域は平年並であった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（東部、中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は、県中西部で平年よりもやや多く、他の地域では平年並であった。また、発病程度は中央部で平年よりも高く、他の地域は平年並であった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：やや多（中西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりもやや多く、他の地域では少なかった。発病程度はいずれの地域も平年に比べ低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：やや少（中西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1)12月の調査では、県中西部で発生が見られ、発生面積は平年よりもやや少なく、発病程度は平年並であった。
- (2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部、中西部）、少（東部）

根 拠

- (1)12月の調査では、県下全域で発生が見られた。県中央部、中西部では、発生面積が平年よりも多く、寄生花率も平年に比べ高かった。東部は発生面積、寄生花率ともに平年並以下であった。
- (2)厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に、既発ほ場では、この時期に防除を徹底する。
- (2)本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（東部）、少（中央部）

根 拠

- (1)12月の調査では、県東部と中西部で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、東部でやや多かった。寄生株率は東部で平年よりもやや高く、中西部ではやや低かった。
- (2)厳寒期は増殖が緩慢になることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)ジアミド剤(フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5など)の効果が低下した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少（中央部、中西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積は平年並以下で、寄生葉率は低かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、平年に比べ発生面積は多く、発病程度も高かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年に比べ少なく、発病度も低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生はみられなかった。
- (2) 厳寒期の発生は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生は見られなかった。
- (2) 厳寒期であり、本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入がないことから、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年並であったが、寄生株率は平年に比べ低かった。
- (2) 厳寒期で増殖が緩慢になることや、この時期、野外から施設内への侵入は無いため、発生は減少傾向で推移するものと。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.